

# 会 長 指 針

“良き思い出を” — 小さな親切 —

左右田 健 次  
(生 化 学)

約48億年前、太陽系の惑星として誕生した地球は、宇宙塵とガスの塊の時代、灼熱のマグマの時代を経て、しだいに温和な原始地球に変わりました。ここに最初の生命が生まれたのは40億年ほど前の事です。単細胞の生物は地球の環境変化に適応しながら、高い機能を持った生物へと進化を遂げ、人類が現れたのは4百万年前です。地球上で最も新参者の人類もまた進化を遂げつつ、自然の猛威や猛獣から協同して自らを守りました。社会が生まれると競争が起こり、国が形成されると戦争が起こりました。その一方では人びとが協調して平和を求める動きも強くなって来ました。今、国内はもちろん、国連に象徴される国際的な協調は、他の生物に見られない人類の大きな叡智の表れといえます。

しかし、国や社会は私たち一人ひとりから成り立っています。個人の立場で、住みやすく、楽しい世の中を作ろうとする試みの一つが、ロータリークラブであると思います。今、私たちの新しい年度が始まろうとしています。思いは、1905年にロータリークラブを創始したポール・ハリスに向かいます。この頃、世界は大きく変わろうとしていました。19世紀後半、欧州で起こった帝国主義は、列強をアジアやアフリカでの領土と勢力の拡大へと駆り立てました。英国がフランスと共同で中国の街々を侵略したアロー戦争やフランスとスペインがヴェトナムを植民地にした仏越戦争などなど。米国や日本も、それぞれフィリピンや李氏朝鮮に触手を延ばし、星条旗も日の丸も清浄ではあり得ませんでした。そして、第一次大戦が起こりました。米国では未熟な資本主義が社会の不安定化を招いて、社会道徳も職業道徳も地に落ち、アル・カボネや禁酒令の時代は目前でした。この混沌の時代に、荒廢の街シカゴだからこそ、ポール・ハリスと同志はロータリークラブを作った、あるいは作らずにはおられなかったのかもしれませんが。国に比べ、個人の力は弱いけれども、その積み重ねの上に、泥沼の社会に蓮の花を咲かせようとしたのでしょう。今の社会にも多くの問題が山積し、人類は国家間の戦争と個人個人の道徳の危機にあえいでいます。華やかでなくとも、地道なロータリークラブの活動が今、強く望まれているのです。

私は人生も社会も究極的には、楽しくなくてはならないと思います。そして、人生は「良き思い出を」作るためにあると信じています。もちろん、多くの困難や悲しみ、失敗などが起こることは世の常ですが、その先には、“楽しいこと”があると信じて進むべき

と思います。私たちは孤島のロビンソン・クルーソーではありませんから、自分が楽しいためには、周りのあなたも、彼も、彼女も楽しくなければなりません。橋本ガバナーのテーマ「おもいやり」もこれに通じるものであり、道端前会長のテーマ、“愛とは心”も同様な気持ちの表れだと思います。W. J. ウィルキンソン RI 会長の唱える「ロータリーは分かちあいの心」もこれらと大きく隔たるものではないでしょう。自分自身の人生においても、社会に対しても“良き思い出を”残すように力を尽くせば、おのずとロータリークラブの心をわが心とすることになると思います。幸いにも、このテーマは私たちのクラブの最長老にして、敬愛する村山忠治郎会員にご揮毫いただきました。その美しい墨痕は例会場で私たちを励ましてくれるでしょう。

そして、“良き思い出を”作るためにも、また、ロータリークラブの精神に沿った社会奉仕や職業奉仕を実践するためにも、一人一人の「小さな親切」が大切だと思います。日ごろの「小さな親切」なくして、「職業を通して社会へ奉仕する」大きな目的は果たせないでしょう。私たちロータリークラブの一人ひとりが示す「小さな親切」は、小さくても社会に確かな波紋を与えるであろうと信じます。そして、その波紋が廻りまわって、日本の子供や青年たちが「小さな親切」を身に付けることに役立てば、荒廃が懸念されている道徳や教育の世界を再生させる一助になると思います。

今年度は私たちのクラブの橋本会員が地区のガバナーとして活躍される時期に当たります。私たちがロータリー活動を充実、発展させ、また、地区大会を成功させることは、橋本ガバナーの活躍を支えることにつながるでしょう。会員増強、国際親善、組織の検討など、問題は山積しています。石田前々会長のサブテーマ「照顧脚下」は、今も私たちの中に投影されています。ロータリーの理想は高く天にかけ、会員の皆様と語り合いつつ、一步一步進んで行きたいと思います。そして、私は2007-2008年度が、京都東ロータリークラブにとって、楽しく、良き思い出を築く一年間になって欲しいと念じ、またそのようになるであろうと信じます。